

① 小浜藩邸跡(現 矢来公園) / 新宿区矢来町38

1628(寛永5)年、藩主酒井忠勝が將軍家光からこの地を拝領して下屋敷を置きました。江戸城の火災の際には家光がこの地に避難し、柵矢来を巡らせて警備にあたったことにちなんで「矢来町」と名付けられました。「解体新書」を訳した蘭学者、杉田玄白は、1733(享保18)年にこの屋敷内で生まれたとされています。平成16年12月、「小浜藩邸跡」、「杉田玄白誕生地の」記念碑が設置されました。



閑静な住宅地にある矢来公園

【杉田玄白(1733-1817)】小浜藩の医者の子として江戸で生まれ、8歳から13歳までを小浜で過ごしました。小浜藩医をしているときに「ターヘル・アナトミア(オランダ語の医学書)」と出会い、同書の翻訳本「解体新書」を発行。この本がきっかけとなり西洋医学・解剖学が国内に広まりました。まさに近代医学の先駆者です。

交通 東京メトロ東西線・神楽坂駅徒歩5分

② 日本近代文学館 / 目黒区駒場4-3-55

1962年5月、散逸のはなはだしい近代文学関係の資料を収集・保存するため、文壇・学界・マスコミ関係の有志113名によって発起され、1967年4月に竣工・開館した日本近代文学館。この文学館の建設に尽力し、初代理事を務めたのが高見順です。ここには高見順のコレクションがあります。



校舎風の外観の日本近代文学館

【高見順(1907-1985)】小説家、詩人。三國町生まれ。日本近代文学館の創立に尽力。死後、文化功労賞もおくられています。三國町荒瀬遊歩道に自筆文字の詩碑があります。

(財)高見順文学振興会事務局 川島 かほるさん

この文学館にあるものは、ほとんどが寄贈されたもの。高見先生やご遺族の方からいただいた貴重な雑誌や図書も数多く所蔵しています。

交通 京王井の頭線 駒場東大前駅(西口)徒歩7分

③ 馬込文士村 / 大田区南馬込、中央、山王

大正末期から昭和初期にかけて多くの文士、芸術家が住み、交流を深めていたことでその名がついた「馬込文士村」。三好達治が萩原朔太郎を慕ってここに来たのは大学を卒業して間もなくのこと。文士たちの住んでいた場所にはモニュメントが置かれ、彼らの足跡を訪ねることができます。



現在の馬込の街並み

【三好達治(1900-1984)】大田市生まれ。1944年、雄島村(現三國町)に移り住みました。上京までの5年間、福井の文学青年に影響を及ぼし、福井県民歌や三國高校、大野高校の校歌も手がけました。

馬込文士村ガイドの会 斉藤 昌人さん

交通 JR大森駅、東京メトロ浅草線西馬込駅

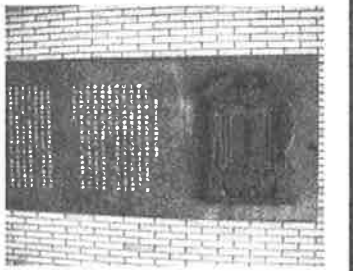
ふくい ゆかりの地を訪ねて

日本の首都東京。かつて、そこで活躍し、大きく開花した郷土ゆかりの先人たちがいます。彼らの残した偉業は、東京の地でも、大切に語り継がれています。東京と福井。実は多くの歴史で結ばれているのです。今回の県政だよりでは、そんな福井と東京をつなぐ「福井ゆかりの人物・ゆかりの地」を紹介し、東京にお出かけの際は、ちょっと立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



⑦ 回向院(小塚原回向院) / 荒川区南千住5-33-13

江戸幕府初期のお仕置き場である小塚原の処刑場に建てられたのが、この小塚原回向院。安政の大獄で獄死した、福井藩士・橋本左内、小浜藩士・梅田雲浜などの墓所があります。また、杉田玄白、前野良沢らが「解体新書」を翻訳するきっかけとなった腑分けが行われた地としても有名で、本堂入口右手に「観蔵記念碑」が建てられています。



「観蔵記念碑」



腑分けを見た人はほかにいようが、杉田玄白の功績は、書物として出版したということ。当時だけにとどまらず、広く後世に伝えた意義は、とても大きいと思います。

【橋本左内(1834-1869)】幕末の福井藩士。藩主松平春嶽に接近して登用され、国政においても世界的視野を持って外交問題や將軍継嗣問題で活躍しましたが、1859(安政6)年、安政の大獄で獄死しました。【梅田雲浜(1815-1869)】幕末の小浜藩士。尊皇攘夷を唱え、志士の指導者となって奔走。1859(安政6)年、安政の大獄で獄死しました。

荒川ふるさと文化館 亀川 幸嗣さん

交通 JR 東京メロ・南千住駅下車徒歩3分

⑥ 岡倉天心記念公園 / 台東区谷中5-7-10

日本美術の先覚者、岡倉天心の旧居や日本美術院のあった地に整備された岡倉天心記念公園。日本美術院は、1898(明治31)年、岡倉天心が中心となって創設された民間団体で、初代院長は天心がつとめました。園内の六角堂には、平櫛田中作の天心坐像が安置されています。



岡倉天心記念公園

【岡倉天心(1862-1913)】明治~大正の美術思想家。1890(明治31)年東京美術学校(現・東京芸術大学)の初代校長に就任し、横山大観、豊田春草などに大きな影響を与えました。渡米して、「東洋の思想」「茶の本」などの英文著作により東洋文化美術の紹介に努めました。今年、ニューヨークで「茶の本」を出版し100周年になります。

この六角堂は、日本美術院が茨城県五浦に移ったときに、太平洋を一望できるとも見晴らしの良い所に天心が建てて瞑想した六角堂とおなじものです。

台東区観光ボランティアガイド 岩塚 健一さん

交通 JR・日暮里駅下車徒歩10分、東京メロ・千駄木駅下車徒歩5分

⑤ 江戸東京博物館 / 墨田区横綱1-4-1

両国国技館の隣に4本足でたつ巨大な建築物が江戸東京博物館。エントランスを入り復元された日本橋を渡って、すぐ左手にあるのが越前福井藩主・松平伊予守忠昌の上屋敷の模型。絢爛豪華なその屋敷は当時の大名の力を物語っています。



江戸城本丸大手門の前にあった越前福井藩邸の復元模型

越前福井藩は徳川家一門の中でも名門の名門。江戸の上屋敷は大変豪華な建物でした。文献に絵図や平面図が残されていたこともあり、この博物館では、数ある藩邸の中から、特にこの越前福井藩邸を復元しています。

江戸東京博物館 原 史彦さん

交通 JR総武線 両国駅西口下車 徒歩3分 都営大江戸線 両国駅(江戸東京博物館前) A4出口 徒歩1分

福井が生んだ余りにも有名な杉田玄白の墓が、東京は港区の虎ノ門にあるのをご存知の方は少ないのかもしれない。私は春分の日近く、そのお墓にお参りしてきた。私の仕事場が虎ノ門一丁目にあることもあって、歩いて5分、6分とかからないところにある。場所は東京都港区虎ノ門三の十で、久遠山栄閑院(猿寺)の境内にある。

杉田玄白の墓

佐々木 功(東京福井県人会理事長)

まず、大きな通りに面したお寺の門の前に、「杉田玄白墓」との比較的大きな表示があつて分かり易い。墓は寺の門をくぐって正面より右側の狭い路地の奥にある。墓参してびっくりしたのは、お彼岸という日もあつてか、墓前に花が供えられており、お線香のにおいがまだ残っていたことである。たまたま、お寺の奥さんが境内におられたのでお聞きしたところ、毎年お彼岸になるとご遺族の方がお参りに来

られると申されていました。かの有名な杉田玄白のご遺族がご存命で、お墓参りをされておられるというのを聞き、それだけでもう深い感銘を覚えたものであります。その日は早速、杉田玄白の偉大さをもう一度噛み締めたくて、杉田玄白の著作や関係記事を読んで、改めて福井の生んだ偉人が、かくも東京の下真中で永眠されていることに思いを新たにしました。佐々木内外国特許商標事務所所長

